



平成27年11月12日

各 位

会 社 名 アジアグロースキャピタル株式会社
代表者名 代表取締役社長 小川 浩 平
(コード番号 6993 東証第二部)
問合せ先 総務部長 岩瀬 茂 雄
(TEL. 03-3448-7300)

平成28年3月期第2四半期累計期間の連結業績予想と実績との差異に関するお知らせ

平成27年5月15日に公表いたしました、平成28年3月期第2四半期累計期間（平成27年4月1日～平成27年9月30日）の連結業績予想値と、本日公表の平成28年3月期第2四半期累計期間の実績において、下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想値と実績値との差異

(1) 平成28年3月期第2四半期（累計）連結業績予想値と実績値との差異
(平成27年4月1日～平成27年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	親会社株主に 帰属する 1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 9,211	百万円 1,375	百万円 1,279	百万円 492	円 銭 6.31
今回実績値 (B)	8,737	990	851	285	3.65
増減額 (B-A)	△474	△385	△428	△207	
増減率 (%)	△5.1	△28.0	△33.5	△42.1	
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成27年3月期第2四半期)	8,003	1,014	665	147	1.92

2. 差異の理由

当社連結子会社である株式会社大黒屋（以下「大黒屋」といいます。）が営む質屋、古物売買業において、国内売上（店舗＋本部売上）につきましては、計画比48百万円増と計画通りの売上を確保しましたが、免税売上につきましては、当初、前年比52.6%増となった2014年10月から2015年3月の免税販売を基準に、その後も免税需要は高止まりするものと想定しておりましたが、2015年4月から6月については、計画対比では143百万円減（8.0%減）となったものの、前年同期比487百万円増（42.0%増）と好調を維持しました。しかし、同年7月のチャイナショック以降、中国の一部のバブルが崩壊したこと等により、従来の高額ブランド品に対する中国人需要の勢いが弱ま

り、同年7月から9月では当初計画に比べ予想以上に落ち込み359百万円減（22.2%減）となった結果、当第2四半期連結累計期間における大黒屋の売上高は、前年同期比705百万円増（9.0%増）となったものの、計画比491百万円減（5.4%減）となりました。

営業利益については、売上高の前期比増加に伴い本部仕入のウェイトが高くなったことにより売上総利益率が当初計画を下回り、また六本木店オープンなどに伴い広告宣伝の強化等により販売費一般管理費の増加にともない、計画対比409百万円減（31.6%減）となりました。

上記の結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの業績は、前回発表予想に比べ、売上高474百万円減、営業利益385百万円減、経常利益428百万円減及び親会社株主に帰属する四半期純利益が207百万円減となりました。

以 上